



- ・自分たちの団体を取材してほしい
- ・こんな話題を取り上げてほしい
- ・ユニークな活動や地域のために
頑張っている団体・人を知っている

公共の場を 「だいいじな場所」に するために



西川正さん

子どもだけで"行ける
どこで" 距離の、ある程度の広さ
がある屋外空間
誰と 地域住民、子ども、
子育て中の保護者
何を 子どもが自由に遊べる
場づくり
生み出したもの
顔見知りが増え、安心して
暮らせるまち



どこで 中学校の体育館
誰と 市民
何を 学区文化祭
生み出したもの
中学生が地域の大人と
一緒に事業を企画運営
した経験

どこで 公民館
誰と 若者、市や公共施設職員
何を 自分たちで場を運営し、
まちについてやりたいことを
語る場
生み出したもの
若者がまちについて考え、
それを発信できる



どこで 砂押川
誰と 市民
何を 遊歩道・ポートなどの活用、
津波・災害の防災対策
生み出したもの
共に生き、共に活かしかう
まちづくり



どこで オシャレなカフェ
誰と 自宅に本があふれている人
何を 本のリサイクルマルシェ
生み出したもの
本を通じた価値観の共有

身近にある市の施設や公園。普段みなさんはどのように使っていますか。
多賀城では、多賀城跡周辺の整備や、東北学院大学キャンパス跡地の開発、
公共施設の見直しなどが計画されており、まちが大きく変わろうとしています。
たがさばでは、2025年9月23日、「まちをもっとおもしろくする『私のだいいじな
場所』のつくり方」と題し、利用する市民が公共施設に関わること、公共施設の場
づくりを担うことについて考える機会を設けました。ゲストは、「あそび」をキーワ
ードに人と人との関係づくりを仕掛けてきた西川正さん(NPO 法人ハンズオン埼
玉)。西川さんは、「人は考えたり工夫する余地があると、自分で動き出し、その場
をつくる当事者になるんです。出番をつくって一緒にやるのが大切」と話します。
2022 年から岡山県真庭市の中央図書館の館長も務める西川さんは「もちより
図書館」「もちより音楽会」など、「もちより」をキーワードに市民と一緒に作るイ
ベントに取り組んでいます。それらの事例を元に、参加者は多賀城市内の公共施
設や公共空間でやってみたいことのアイデアをふくらませました。

「関わった分だけ、だいいじな場所になる」という西川さん。
新しくできようとしている・変わろうとしている場所を、どんな
ふうにしていきたいか考えてみませんか。それがまちづくりに
関わる大切な一歩になります。



NPO 法人
ハンズオン埼玉



真庭市立
図書館

多賀城の 施設・公園などの整備の動き

2023年

東北学院大学多賀城キャンパス跡地にて官民
連携で課題解決型まちづくりをめざすことを発表

2025年

多賀城南門復元
多賀城跡ガイダンス施設オープン

2026年3月

中央公園スケートパークオープン(予定)

2026年

市役所エントランス棟完成(予定)

2030年度

スポーツウェルネス施設オープン(予定)

そのほか、公民館、市民活動サポート
センター、シルバーヘルスプラザ、児
童館の機能を、西部、中央、東部へ
の3つの公民館等の建物内に集約す
る案が出ています。



多賀城市
公共施設等
総合管理計画



みんなで考える多賀城のこと



地域で暮らす

外国人とつながる 「とびら」を開こう!



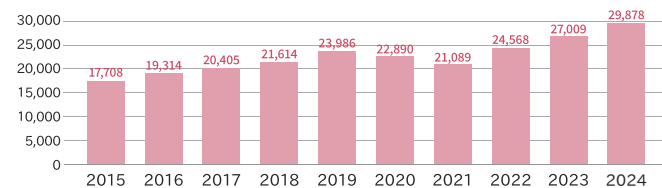
近年、日本に住む外国人が増えています。多賀城市周辺にも、技能実習生や留学生が多く暮らし、地域住民がお互いに住みよい地域づくりのために交流を図る取り組みが行われています。

共に地域で暮らす住民として

宮城県に住む外国人の数は年々増加し、29,878人(2024年12月末現在)になり、総人口数の約1.3%を占める割合になっています。これは多賀城市でも同様で、外国人の数はゆるやかに伸びて469人(出典:「多賀城市人口集計表」2025年9月末現在)。その中には、ベトナムやインドネシアなどアジア諸国を中心とした技能実習生が働きにきていて、技術を学ぶ中で地域の産業を支えている一面もあります。

市内で外国人をよく見かけるなど身近な存在になっていますが、その一方で、一人ひとりについて知る機会は多くありません。同じ地域で暮らす住民として、理解を深めることが大切になっています。

宮城県の在留外国人数の推移



※ 人数はすべて12月末現在 | 出典)「在留外国人統計」公益財団法人宮城県国際化協会

※ 外国人技能実習制度とは、途上国の外国人が企業などで技術や技能を学ぶ制度。農業、漁業、建設業、食品製造業などで働きながら母国の発展に活かすことを目的としています。



↑ 湾ダブルしおがま海浜公園で開催の「国際交流フェス!」。塩竈の語学学校の協力でゲームやクイズなどを通して交流しました。

異文化の「かべ」を「とびら」にしていく

2025年9月21日、誰でも気軽に参加できる多文化交流の場をつくりたいと2つの団体が塩竈市でイベントを開催しました。互いの文化を知り、一緒に体験し理解を深める目的です。

公益社団法人塩釜青年会議所は、遊びやスポーツなどを通して、さまざまな国の文化に触れる「国際交流フェス!」を企画しました。理事長の鈴木淳士さんは「多様な文化を知ってもらうことで、地域の子もたちが大きくなったときに、外国の方たちと互いに支え合えるような社会にしていきたい」と想いを話しました。外国人が今後も増えていく状況を踏まえて、子どもたちが外国人に親しみをもち、やさしい地域になっていくことを期待します。今後も交流の機会を継続していくそうです。

また、市民活動団体TobiLalaは、“食”を通じた異文化交流「つながるアジアカフェ」を展開しています。気仙沼市での開催に次いで、塩竈市で初開催。海外の料理と一緒に作って食べて世間話をしながら過ごします。「なかなか話す機会のない外国人と地元の人たちがつながるきっかけになれば」と代表の中川真規子さん。参加したインドネシアの技能実習生と料理の食材から故郷の話になり、推しのアイドルやアニメ、仕事のことなどの話題で少しずつ距離が縮まっていきました。

地域に暮らす外国人と地域住民の間には言葉や文化、価値観など「違う」「わからない」ことが壁になっています。交流の機会を増やして知り合うことで、共助が生まれる地域になっていくのではないのでしょうか。さまざまな壁を取り払い、お互いが暮らしやすい社会を目指していきたいですね。



↑ 本多工房での「つながるアジアカフェ in しおがま」。“食”をきっかけに技能実習生と会話が弾みました。

tag

「tag(たっぐ)」には、多賀城(tagajo)」の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ



ブログ